

## 4 市民の防災意識について

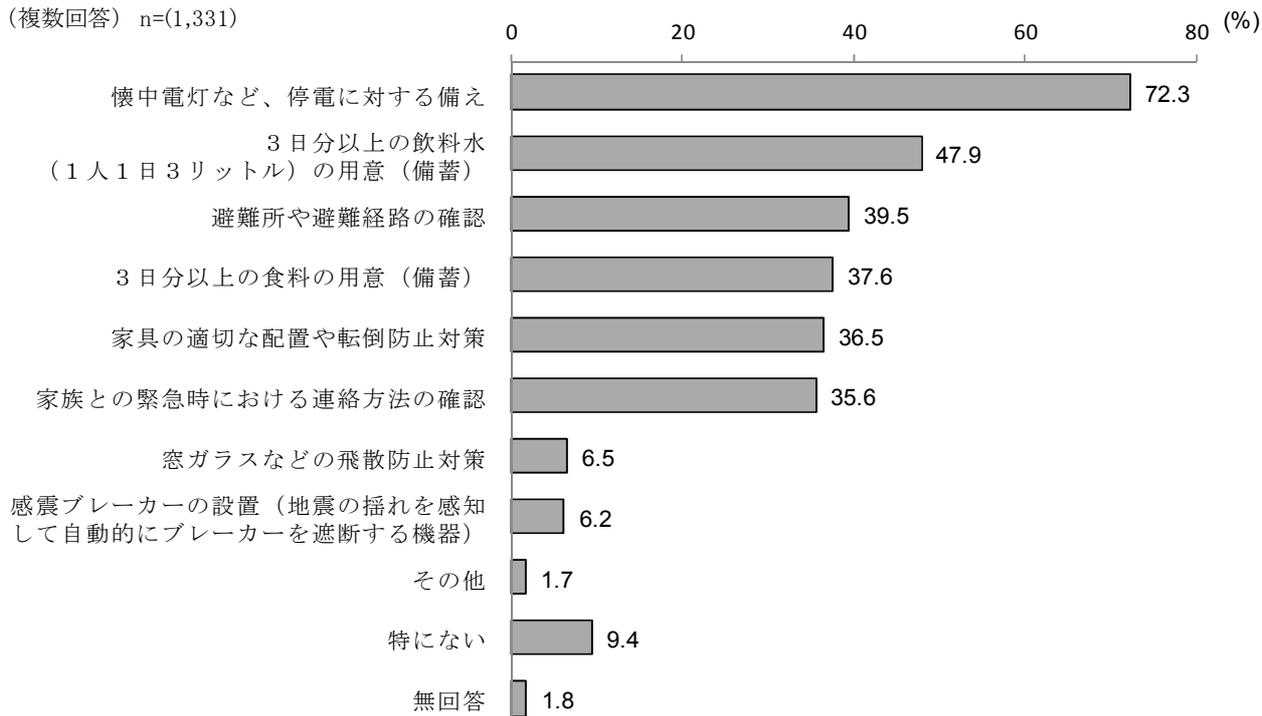
### 4-1 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

◎「懐中電灯など、停電に対する備え」が72.3%

問 22 現在、大地震などの大規模な災害に備えるため、あなたの家庭内で行っている取組は何ですか。  
(あてはまるもの全てに〇)

図表 4-1 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

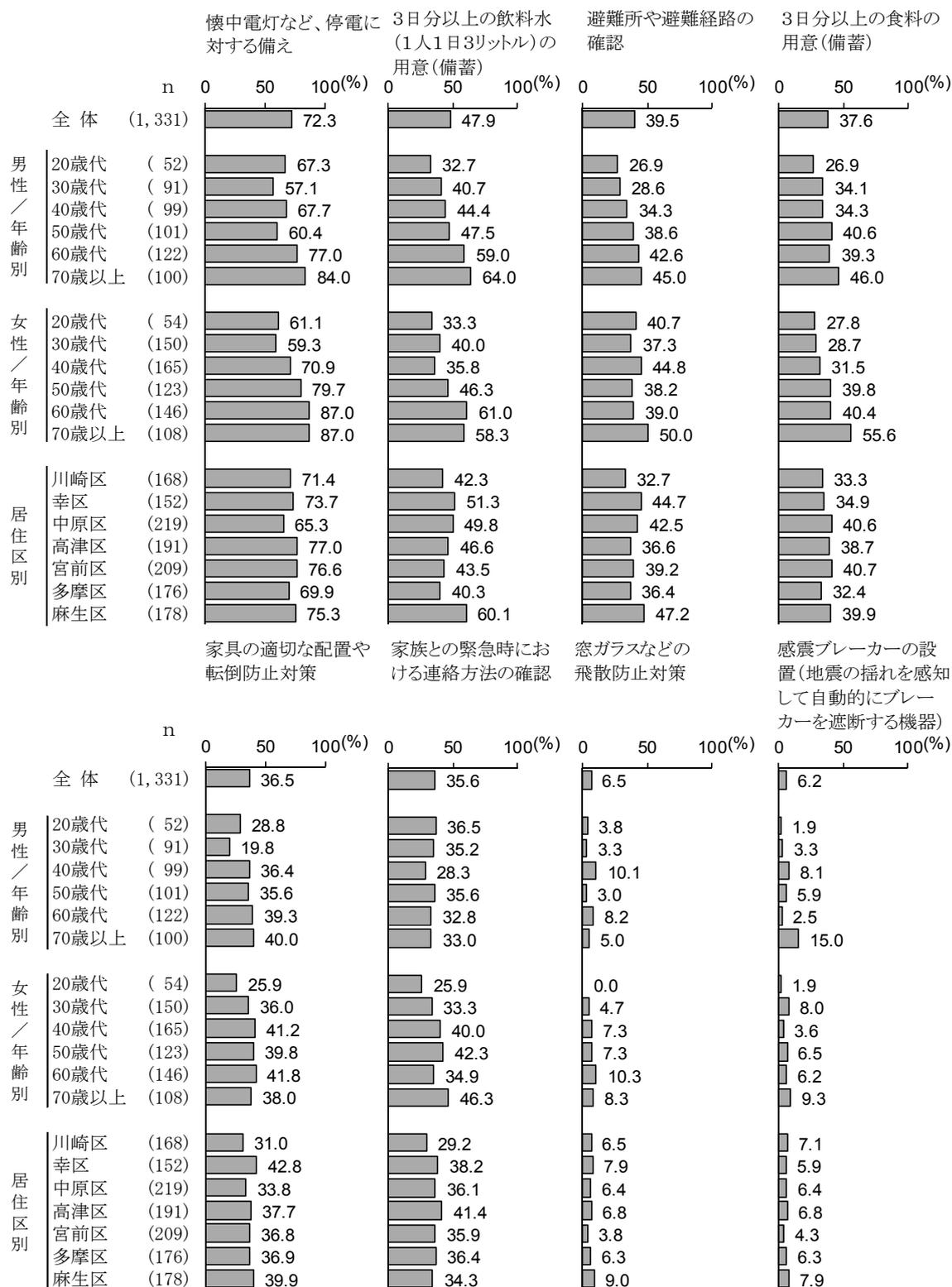
(複数回答) n=(1,331)



大規模な災害に備えて、家庭で行なっている取組については、「懐中電灯など、停電に対する備え」(72.3%)が最も高く、7割台となっている。次いで、「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(47.9%)、「避難所や避難経路の確認」(39.5%)の順となっている。

図表4-2 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

(性／年齢別・居住区別 上位8項目)



性／年齢別では、「懐中電灯など、停電に対する備え」は、年齢が高くなるにつれて、割合が高くなる傾向となっている。「3日以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」は、男性の70歳以上(64.0%)、女性の60歳代(61.0%)が最も高い。

居住区別では、「懐中電灯など、停電に対する備え」は、全ての区で6割を超えている。「3日以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」は、麻生区(60.1%)で6割を超えている。

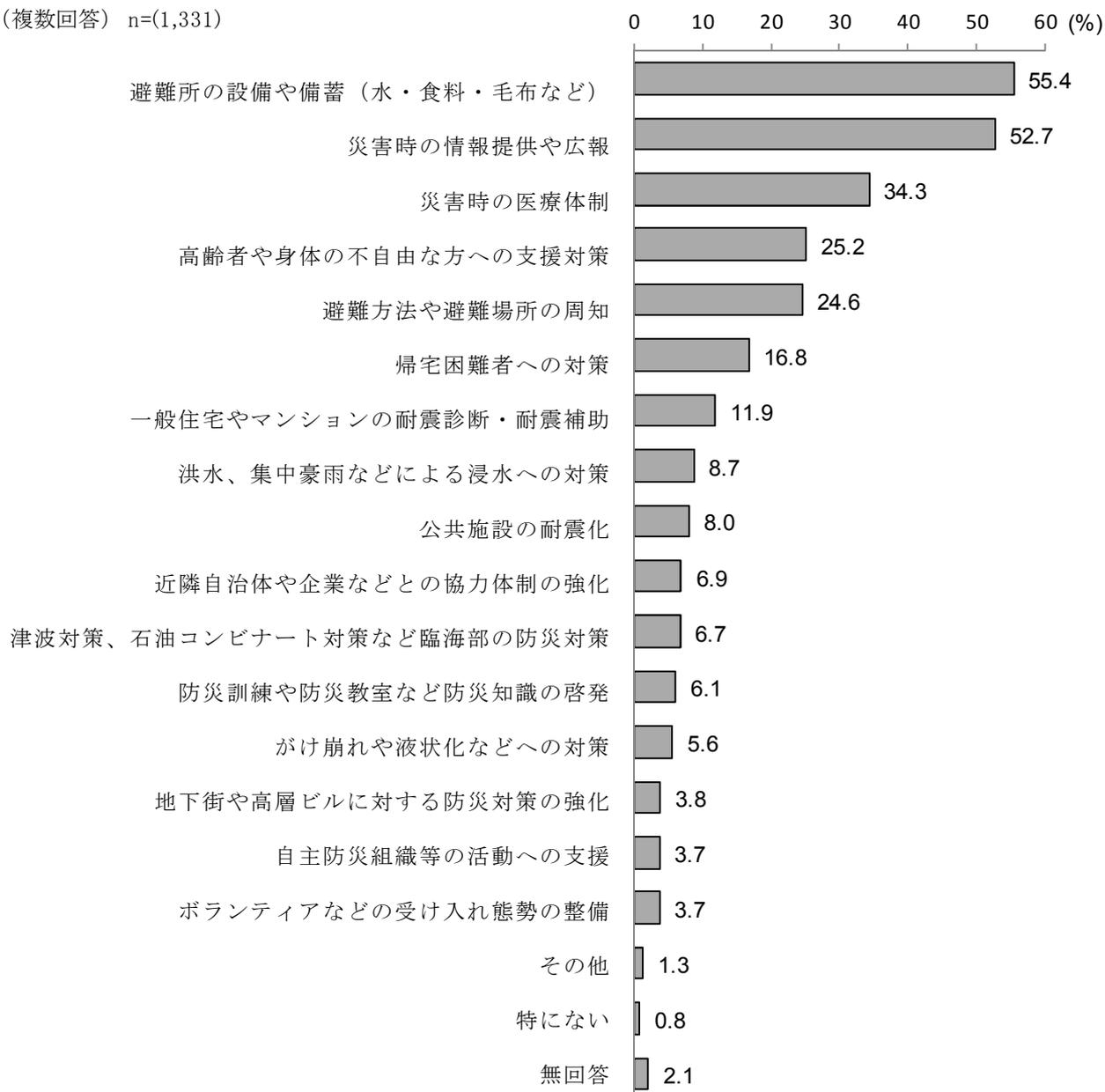
## 4-2 防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいこと

◎「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」が55.4%

問 23 あなたが、防災対策について行政に特に力をいれてもらいたいことは何ですか。

図表 4-3 防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいこと

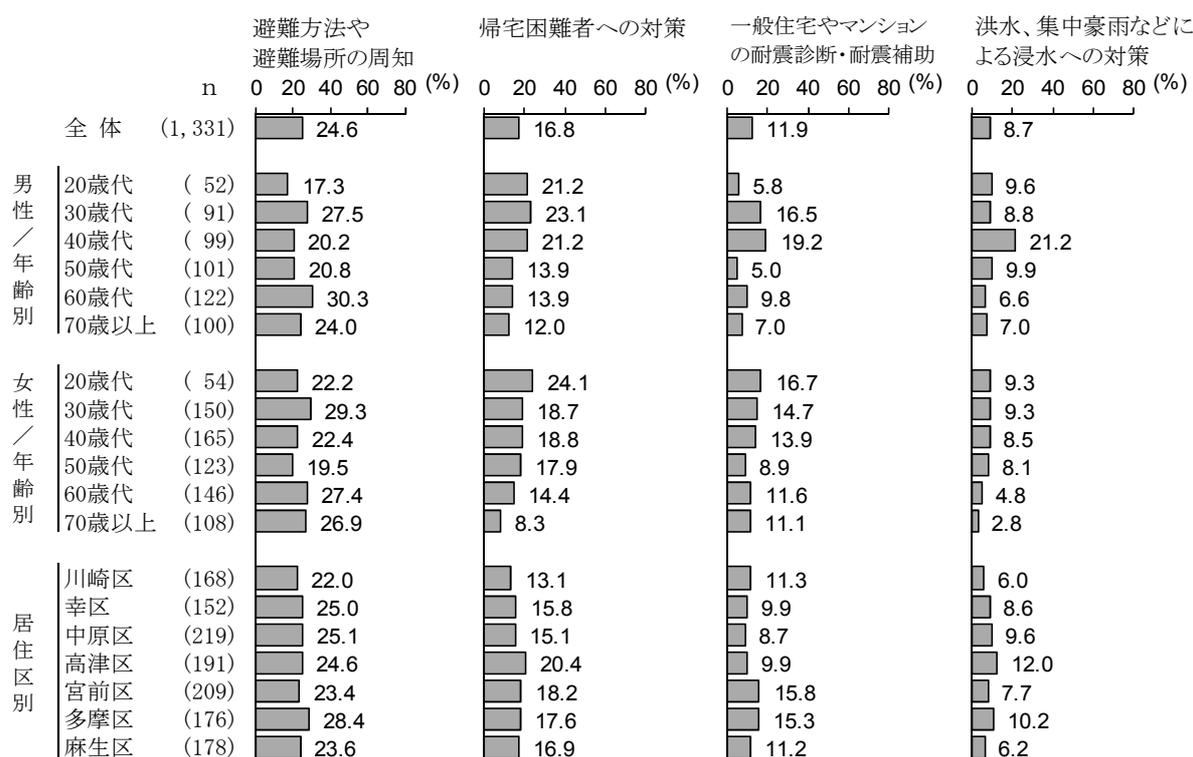
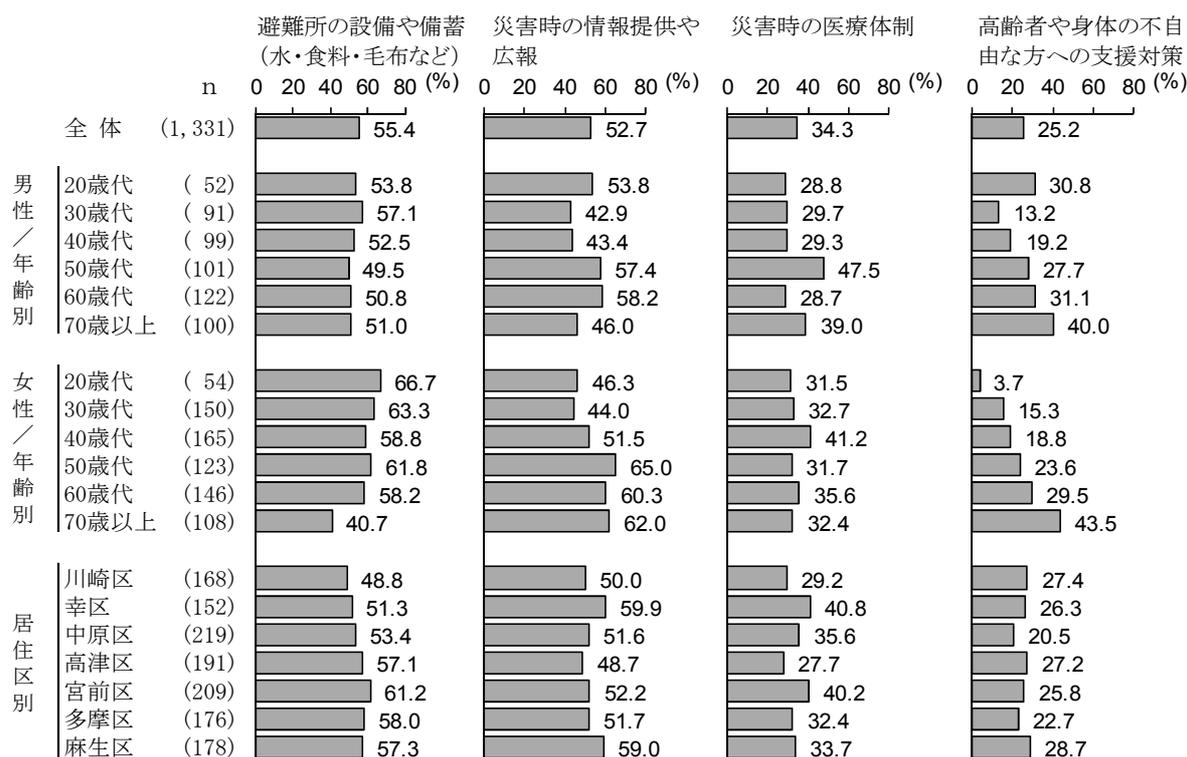
(複数回答) n=(1,331)



防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいことは、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」（55.4%）と、「災害時の情報提供や広報」（52.7%）が5割台と高い。次いで、「災害時の医療体制」（34.3%）、「高齢者や身体の不自由な方への支援対策」（25.2%）、「避難方法や避難場所の周知」（24.6%）の順となっている。

図表4-4 防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいこと

(性／年齢別・居住区別 上位8項目)



性／年齢別では、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」は、女性の20歳代（66.7%）、30歳代（63.3%）で、特に割合が高い。「災害時の情報提供や広報」は、女性の50歳代～70歳以上で高く、6割を超えている。

居住区別では、「災害時の情報提供や広報」は、幸区（59.9%）と麻生区（59.0%）で、約6割と高い。

### 4-3 川崎市の災害情報の入手手段

◎「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」を知っている人が49.7%、実際に入手したことがある人は42.9%

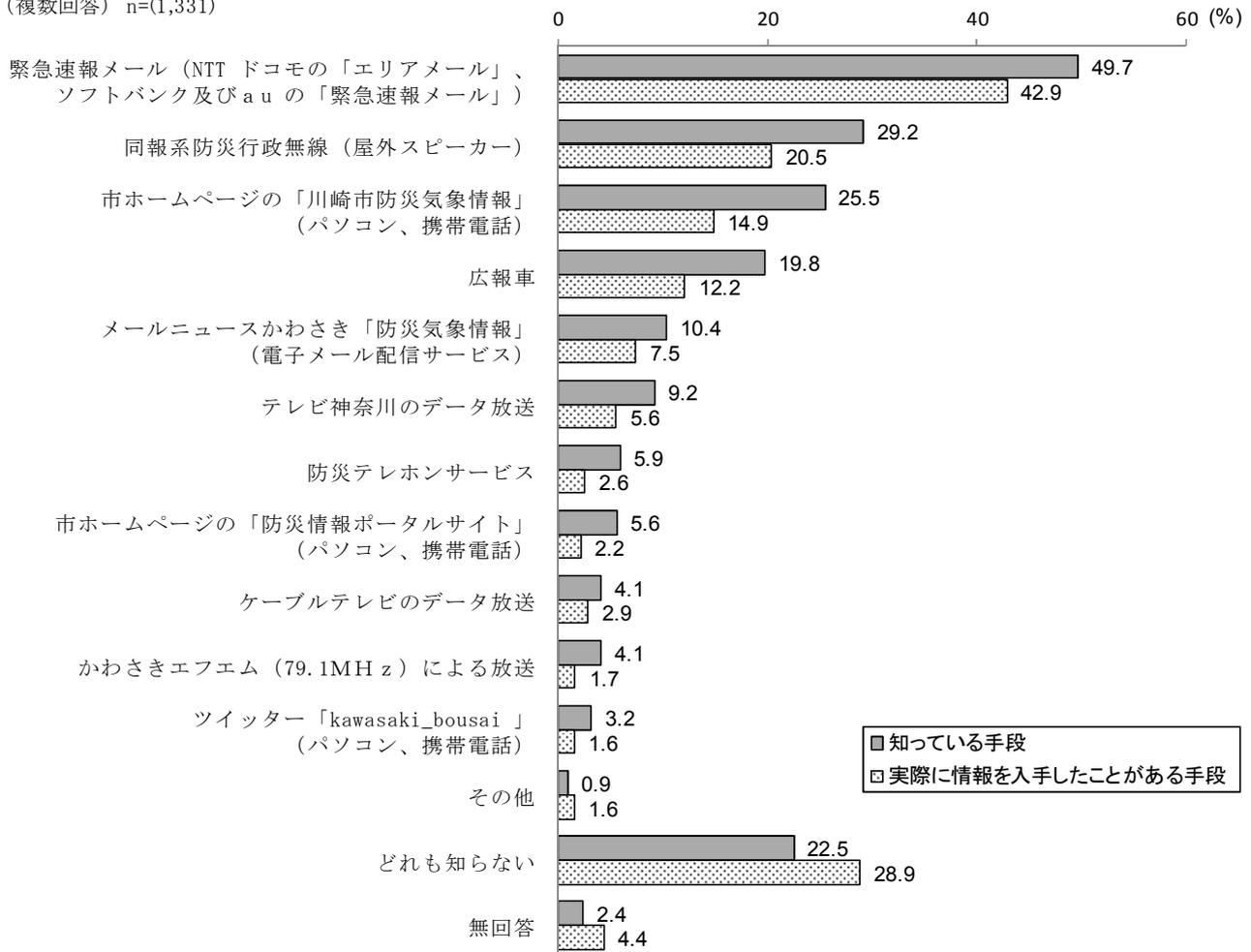
問24 本市では、災害に関する情報を様々な手段を用いて提供しています。

(1) あなたは、次の手段で提供していることを知っていますか。(あてはまるもの全てに○)

(2) あなたは、どの手段で情報を入手したことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

図表4-5 災害に関する情報提供手段の認知度

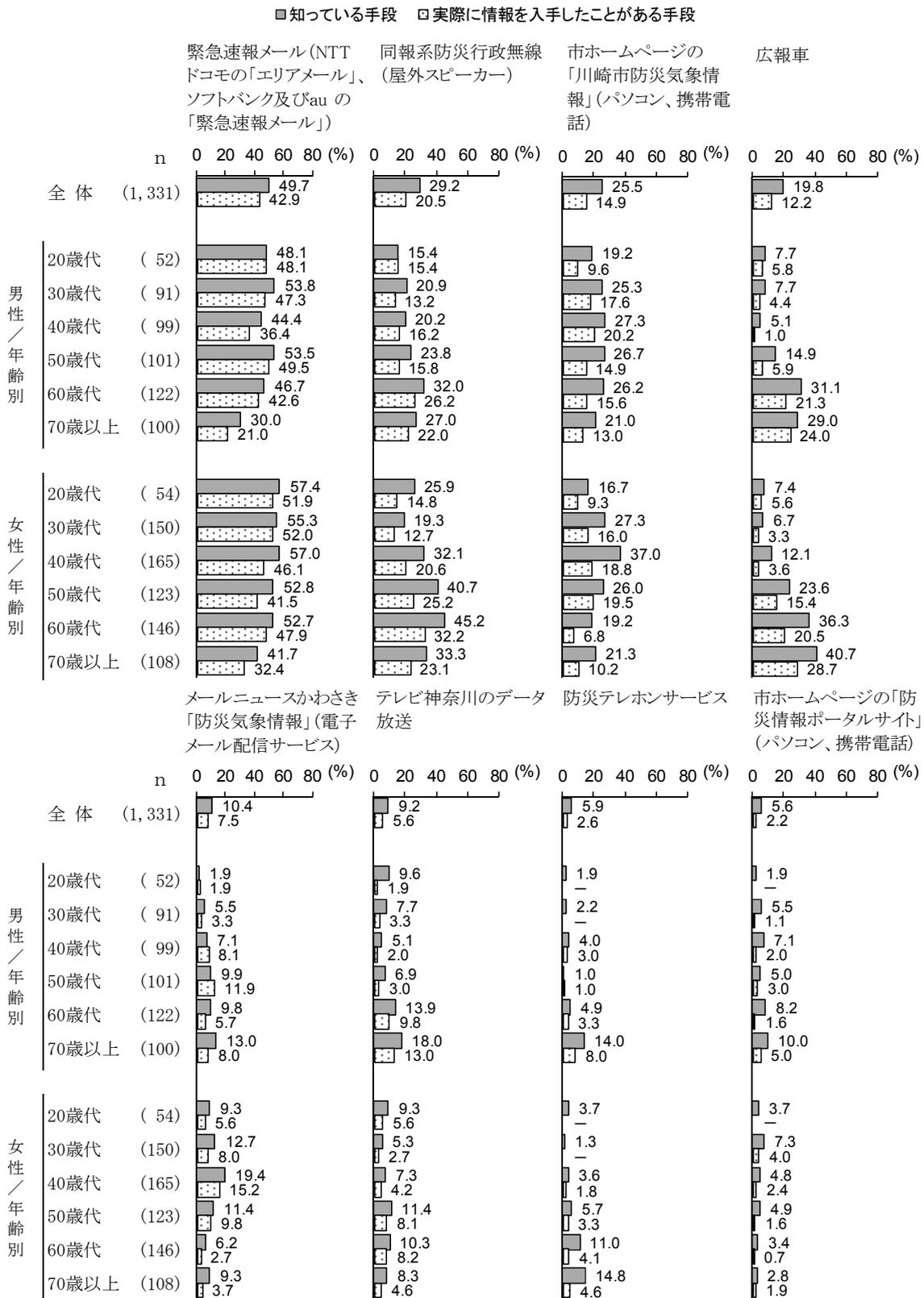
(複数回答) n=(1,331)



川崎市からの災害に関する情報手段のうち、知っている手段については、「緊急速報メール（NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」（49.7%）が約5割と、最も高い。次いで、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」（29.2%）、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」」（25.5%）の順となっている。

実際に情報を入手したことがある手段については、「緊急速報メール（NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」（42.9%）が4割台と最も高い。次いで、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」（20.5%）、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」（パソコン、携帯電話）」（14.9%）の順となっている。

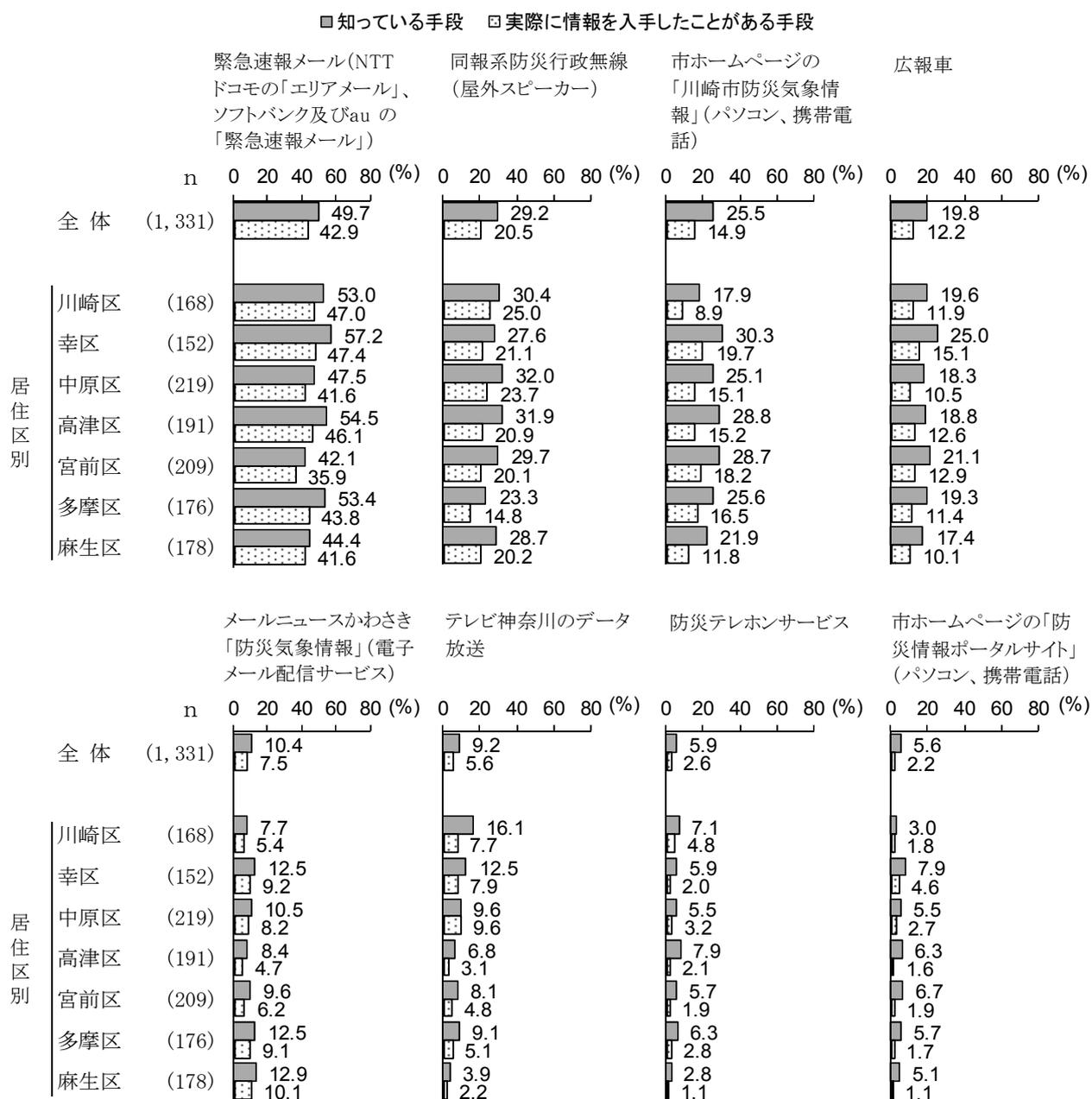
図表4-6 災害に関する情報提供手段の認知度（性／年齢別 上位8項目）



知っている手段を性／年齢別で見ると、「緊急速報メール（NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」は、70歳以上の男性（30.0%）、女性（41.7%）で割合が低い。

実際に情報を入手したことがある手段を性／年齢別で見ると、「緊急速報メール（NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」は、70歳以上の男性（21.0%）、女性（32.4%）で、割合が低い。「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」は、60歳代の男性（26.2%）、女性（32.2%）で最も高い。

図表4-7 災害に関する情報の入手手段（居住区別 上位8項目）



知っている手段を居住区別で見ると、「緊急速報メール (NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」は、幸区 (57.2%) が最も高く、次いで、高津区 (54.5%)、多摩区 (53.4%) の順となっている。

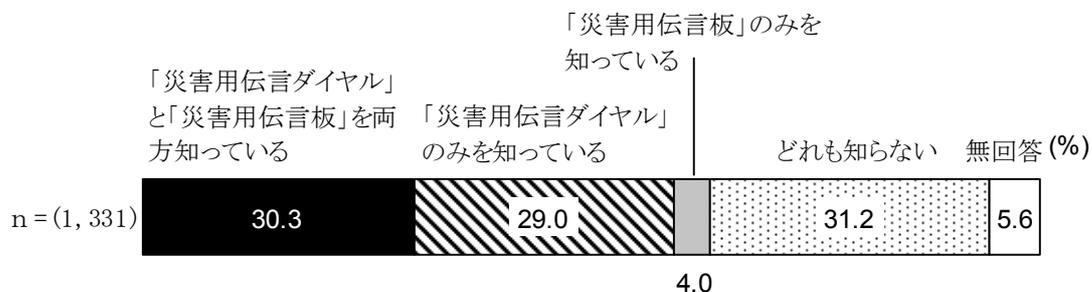
実際に情報を入手したことがある手段を居住区別で見ると、「緊急速報メール (NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」は、幸区 (47.4%) が最も高く、次いで、川崎区 (47.0%)、高津区 (46.1%) の順になっている。

## 4-4 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度

◎ 『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」は30.3%

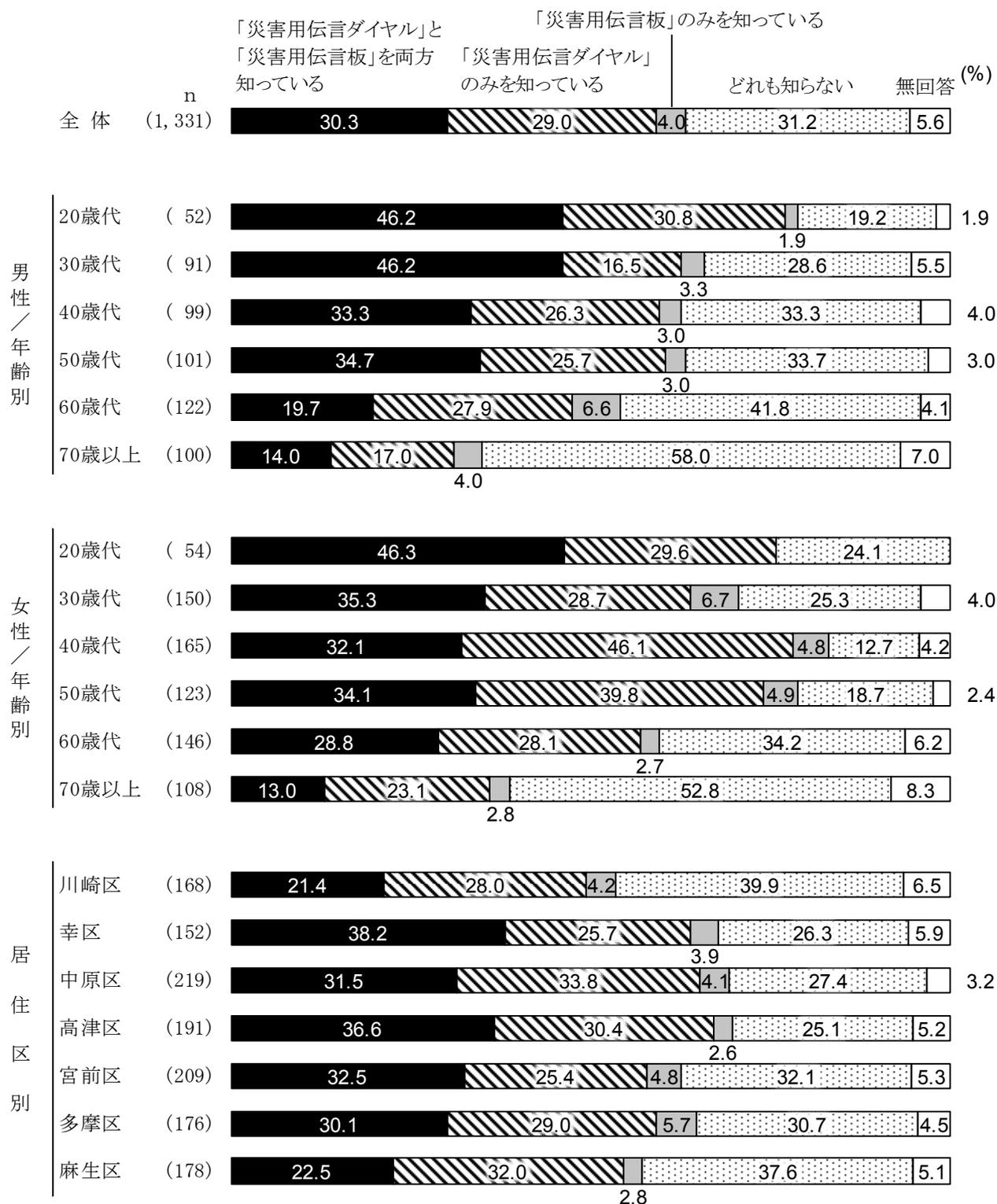
問 25 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」や「災害用伝言板」を知っていますか。(○は1つだけ)

図表 4-8 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度



「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度については、「『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」は30.3%となっている。一方、「どれも知らない」は、31.2%となっている。

図表4-9 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」は、年代が下がるにつれて、割合が高くなる傾向になっている。「災害用伝言ダイヤルのみ知っている」は、女性の40歳代(46.1%)、50歳代(39.8%)で高い。一方、「どれも知らない」は、男女とも、70歳以上で割合が高く、5割を超えている。

居住区別では、「両方知っている」が、幸区(38.2%)で最も高い。「どれも知らない」は、川崎区(39.9%)で最も高い。

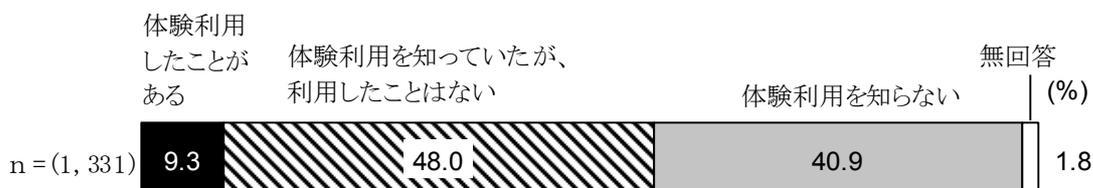
## 4-5 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用

◎「体験利用を知っていたが、利用したことはない」は48.0%

問 25 で『災害用伝言ダイヤルを知っている』と回答された方にかがいます。

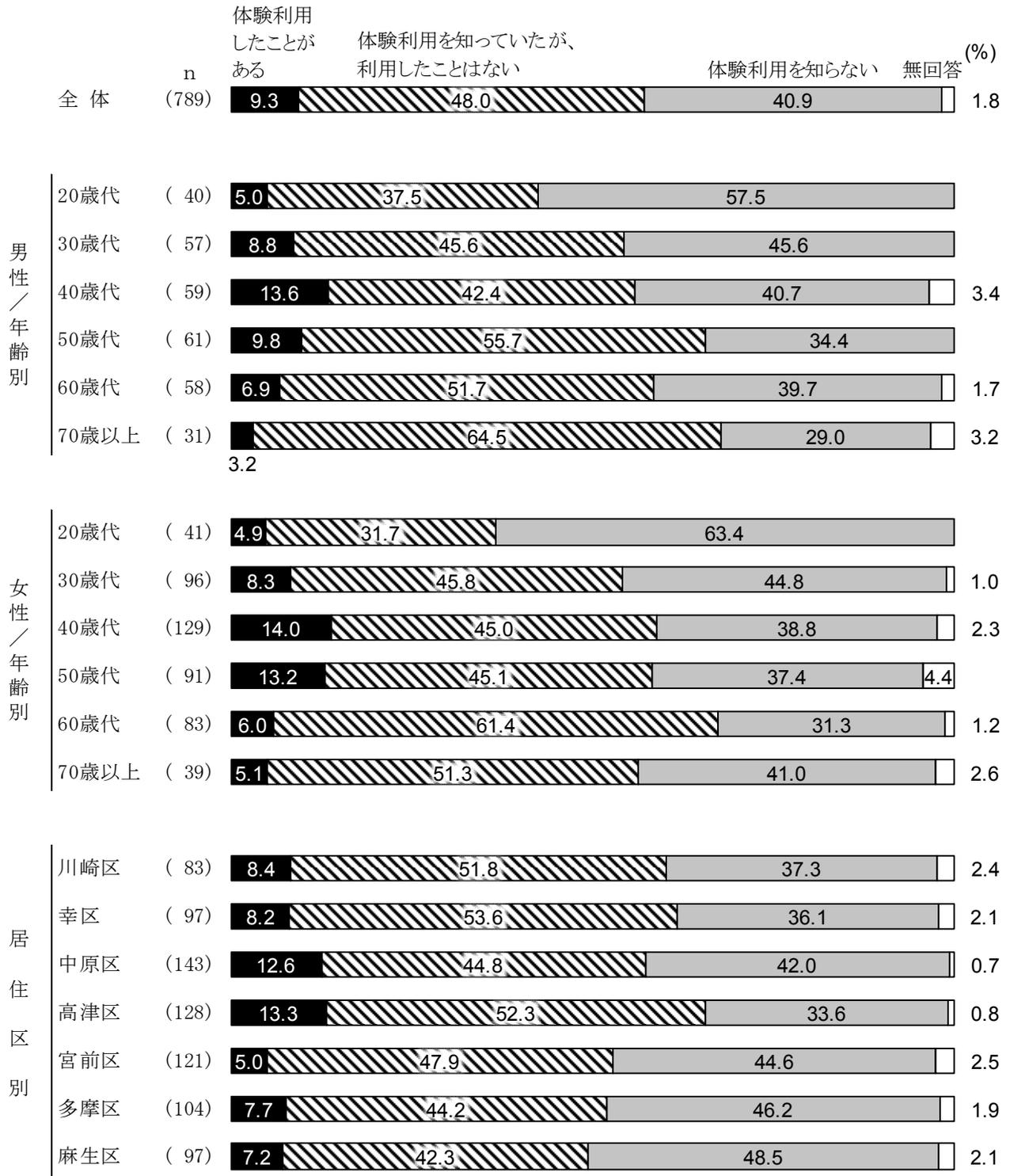
問 25-1 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」の体験利用をしたことがありますか。(○は1つだけ)

図表 4-10 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用



「災害用伝言ダイヤル」の体験利用については、「体験利用を知っていたが、利用したことはない」(48.0%)が最も高く、次いで「体験利用を知らない」(40.9%)が高い。一方、「体験利用したことがある」(9.3%)は1割を下回っている。

図表4-11 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「体験利用したことがある」は、40歳代の男性（13.6%）、女性（14.0%）で、最も高い。「体験利用を知らない」は、20歳代の男性（57.5%）、女性（63.4%）で最も高い。

居住区別では、「体験利用したことがある」は、高津区（13.3%）、中原区（12.6%）の順で高く、1割を超えている。一方、「体験利用を知らない」は麻生区（48.5%）、多摩区（46.2%）の順で高い。

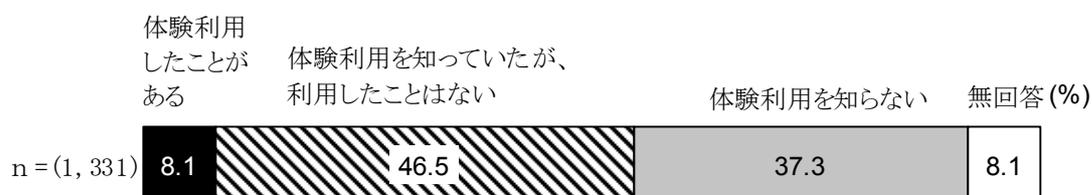
## 4-6 「災害用伝言板」の体験利用

◎「体験利用を知っていたが、利用したことはない」は46.5%

問25で『災害用伝言板を知っている』と回答された方にうかがいます。

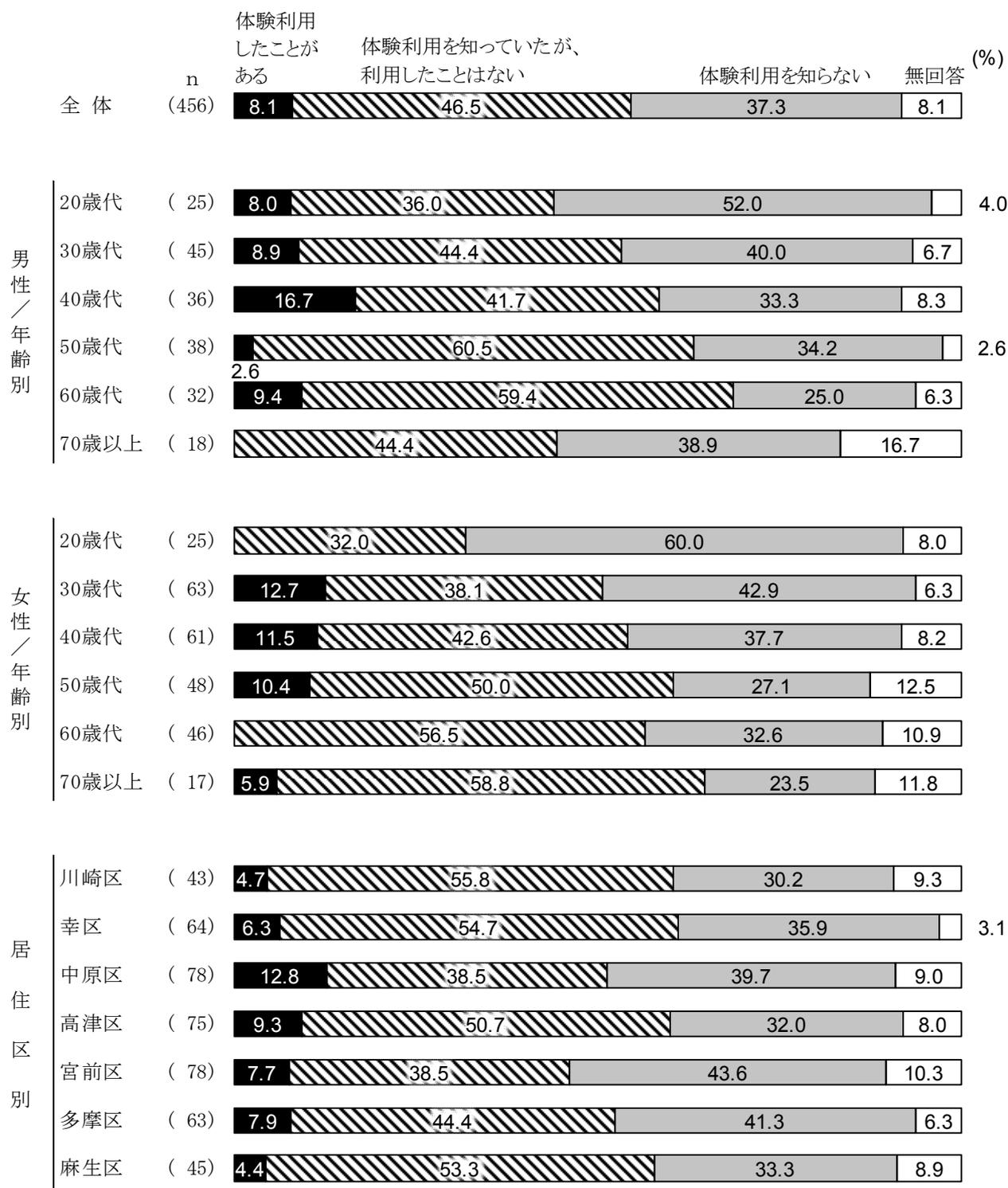
問25-2 あなたは、「災害用伝言板」の体験利用をしたことがありますか。(〇は1つだけ)

図表4-12 「災害用伝言板」の体験利用



「災害用伝言板」の体験利用については、「体験利用を知っていたが、利用したことはない」(46.5%)が最も高い。次いで、「体験利用を知らない」(37.3%)が高い。一方、「体験利用したことがある」(8.1%)は1割を下回っている。

図表 4-13 災害用伝言板の体験利用状況（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「体験利用したことがある」は、男性は40歳代（16.7%）、女性は30歳代（12.7%）で最も高い。「体験利用を知らない」は、20歳代の男性（52.0%）、女性（60.0%）で最も高い。

居住区別では、「体験利用したことがある」は、中原区（12.8%）が最も高い。「体験利用を知っていたが、利用したことはない」は、川崎区（55.8%）、幸区（54.7%）、麻生区（53.3%）の順で高い。「体験利用を知らない」は宮前区（43.6%）、多摩区（41.3%）の順で高い。